

第11回・総会記念講演会



加害責任を問うことの 現代的意義

金学順さんが声をあげてから 30 年の歳月が過ぎ、日本軍「慰安婦」制度のサバイバーたちも、その多くがこの世を去ってしまいました。当事者に対する謝罪や個人補償の機会も、既に多くが失われてしまいました。しかし、だからといって、日本の加害責任が消え去ってはいません。加害責任を問う人々に対する排外主義の勢いも増しています。

この講演では、植民地支配責任という観点から加害責任を問うことの現代的意義について考えます。

いた がき りゅう た

講師 **板垣 竜太**さん



- ・同志社大学社会学部・教授
- ・専門は朝鮮近現代社会史、文化人類学
- ・関連する共編著
『Q&A 朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任』（御茶の水書房, 2018）
『「慰安婦」問題と未来への責任』（大月書店, 2017）

2021年 7月 10日(土) 15:30~17:30 開場 15:00

会場: 札幌市教育文化会館 302号室 (札幌市中央区北1西13)

参加費: 1000円 ユース 500円

会場でのご参加の方は、完全予約制です。

☆7/6(火)迄に、お名前と電話番号をTEL・fax 011-711-1910にお知らせください。

オンライン(ZOOM)でのご参加の方は、

☆前日迄に、お名前を記し ka132358@gmail.comにお申込ください。

☆当日の朝に、ご招待URLを送ります。☆Zoomに関する質問もご連絡ください。

☆参加費振込先は、

[郵便振替「慰安婦」問題の解決をめざす北海道の会 02790-1-46388]

※なお、講師が、コロナ事情により来場されない場合はリモート講演となります。

主催: 日本軍「慰安婦」問題の解決をめざす北海道の会
問合せ: ギャラリー茶門 011-711-1910 (12~17時)